日立市立水木小学校

Ⅰ　実践

１　研究主題

互いを認め合い，思いやりや助け合いの心を育てる人権教育の在り方
～かがやきプロジェクトを通して～

（１）主題設定の理由

学校周辺には，泉前遺跡や泉が森などの遺跡が多い。地域の人々は地域の歴史に誇りをもち，伝統を大切にする気持ちが強い。

児童は，明るく活発で，縦割り班活動などを通し，異学年の交流も盛んである。高学年が低学年を思いやる心が育ってきている。しかし，あいさつでは声が小さかったり，進んであいさつができなかったりすることもある。

地域の方々や保護者からは，思いやりの心をもち，将来，地域の方々と助け合える児童の育成を願う声が大きい。

そこで本校では，「かがやきプロジェクト」として，「元気 UP プロジェクト」「学び UP プロジェクト」「笑顔 UP プロジェクト」の３本柱を中心に児童の指導に当たってきた。人権教育は主に，「笑顔 UP プロジェクト」を通して行っている。児童の心を豊かに育むための活動として，あいさつ運動の推進，豊かな体験を通した実践的な道徳教育の充実，望ましい集団活動を通した特別活動の充実，特別支援教育の充実などが挙げられる。これらの教育活動を通して，一人一人がお互いの良さを認め合い思いやりの気持ちをもって，ともに助け合うことのできる児童を育てたいと考え，本主題を設定した。

（２）研究の内容

ア　人権意識を育む体験活動
イ　地域の行事への参加
ウ　人権に関する啓発活動

２　実践内容

（１）人権意識を育む体験活動

ア　中学校や PTA と連携したあいさつ運動

本校では毎朝，生活委員会の児童と教職員が昇降口付近に立ち，登校してくる児童にあいさつ運動を実施している。生活委員会の児童が，大きな声で元気にことばをかけるので，あいさつが苦手だった児童も少しずつ元気にあいさつが返せるようになってきている。また，学期ごとにマナーアップ週間の時期に合わせて泉丘中学校の生徒や PTA の役員と連携したあいさつ運動を展開し，効果をあげている。

＜あいさつ運動の様子＞

イ　いじめ０（ゼロ）集会

児童集会で，毎年実施している。いじめがなぜいけないことなのか，自分がいじめをされたらどうするか，いじめを目撃してしまったらどうするかなどを，各学年の発達段階に応じて学級で話し合う。集会では学級ごとに話し合って決めた「いじめのちかい」を発表する。集会後，自分の決意を「めばえノート」や「わたしたちの道徳」に記入し保護者に読んでもらい，家庭でも話し合う。

さらに，学校だより，学年だより，生徒指導だより「はまぎく」などで「いじめ０（ゼロ）運動」の取り組みの様子を保護者に知らせ，理解啓発を図っている。

＜いじめ０集会の様子＞

ウ　のびのびタイム＜縦割り異学年交流＞

月に１回程度，ロングの昼休みに１年生から６年生まで縦割り班で交流する活動である。６年生が班長になり，事前に班長会議を実施して遊ぶ内容を決めている。それぞれ１３班に分かれた班ごとに，ドッジボールや大縄，リレー，鬼ごっこ，昔遊びなどを実施している。

６年生が中心になり，整列の仕方や遊び方などを下級生に優しく教え，交流を深めてい

る。異学年との交流する機会を得て，高学年のリーダーとしての意識が芽生えるとともに普段外遊びが苦手な子どもたちも自然に溶け込み，異学年と遊ぶ楽しさを感じる時間となっている。

エ　地域との交流

運動会で，毎年４年生が中心となって高齢者との競技種目『じゃんけん列車』を実施し交流の場としている。また，地域行事の９月の敬老会では，全校児童が高齢者の方々へ手紙を出して交流している。また，敬老会や１０月の水木秋祭りでは，学校の代表として３年生が『水木っ子ソーラン』の発表で参加し，地域の方々と交流を深めている。

オ　５年生宿泊学習「里美民泊」

５年生の行事の１つとして，９月に「里美民泊」の宿泊学習を実施している。これは，１４年続く水木小の特色ある活動のひとつである。

宿泊学習でお世話になる民泊家庭の方々とは，1学期から手紙などを通じて交流を続け，宿泊学習終了後も感謝の気持ちを綴ったお礼の手紙を送ったりやかかし祭りへ参加したりして，年間を通して，交流が続いている。１泊２日の中で家族の中に溶け込み寝食をともにする。児童にとって，民泊での多くの貴重な経験は，地域への郷土愛となり，児童にとって一生忘れられない貴重な思い出のひとつとなっている。

＜民泊家庭でかぼちゃの収穫＞

（３）人権に関する啓発活動

ア　「人権メッセージ」の実施

「人権メッセージ」は，児童が人権について考えるきっかけとなる有効な方法である。自分なりの考えや思いを自分のことばで表現することで，人権意識が高まっていくと考えられる。

イ　各種たよりの発行

「いずみ」（学校だより）や「はまぎく」（生徒指導だより）を通して，保護者や地域の方々にも人権教育に関する本校の取り組みについて知らせ，理解啓発を図っている。

３　研究の成果

（１）「いじめ０運動」は，家族での話し合いからスタートしたので，子どもたちだけでなく家族の思いや願いが込められた有意義な活動だった。いじめ０運動などの活動を通してのアンケートやQUテストで，学級の実態や個別に配慮を要する児童を把握することができ，具体的な対応が試みやすくなった。

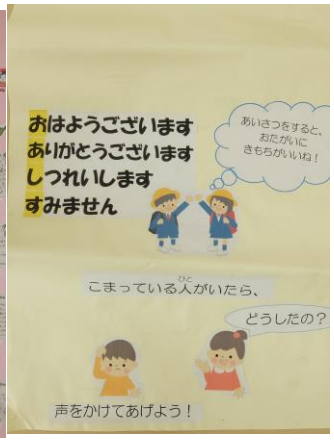
（２）　人権メッセージでは，人権について考えるよい機会となった。人権コーナーに掲示することで，友だちの考えや思いを知り，自他の理解や尊重につながった。

Ⅱ　今後の課題

毎年６月に実施される「いじめ０運動」だが，１年に１度だけでなく，学級活動や道徳などの時間に「いじめ」についての話し合いを継続していきたい。ふだんから教室内の言語環境に気を配り，児童の人権感覚や人権意識をより高め育てていきたい。

Ⅲ＜人権コーナー設置の様子＞

○オアシス運動を啓発するための掲示

・おはようございます
・ありがとうございます
・しつれいします
・すみません

○人権メッセージの掲示をすることで，様々な考え方・物事のとらえ方に触れられる機会を作る。